



令和2年7月31日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（7月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

宮崎大学の最近のトピックス（令和2年度7月分）

1. 宮崎大学履修証明プログラム「宮崎大学 420 単位時間日本語教員養成プログラム」
2019 年度修了式を開催
2. 宮崎大学と大宮高校が連携したオンライン指導を実施
3. 宮崎大学教育学部・大学院教育学研究科、日向商工会議所との連携協力に関する協定
を締結
4. 宮崎大学土呂久歴史民俗資料室オープン
5. 工学部の改組について
6. 宮崎大学履修証明プログラム「宮崎大学 420 単位時間日本語教員養成プログラム」
2020 年度開講式を開催
7. 附属図書館におけるネーミングライツパートナー募集について
8. 宮崎大学工学部同窓会が宮崎大学基金へ 100 万円の寄附目録寄贈
9. 附属図書館（本館）リニューアルオープン
10. 夢の素材大量生産へ！ミドリムシが作るナノファイバー

宮崎大学履修証明プログラム「宮崎大学 420 単位時間日本語教員養成プログラム」 2019 年度修了式を開催

令和 2 年 6 月 20 日（土）、宮崎大学は創立 330 記念交流会館において、宮崎大学履修証明プログラム「宮崎大学 420 単位時間日本語教員養成プログラム」2019 年度修了式を挙行し、第 1 期修了生 15 名を送り出した。

宮崎県においては、急増する在住外国人への日本語支援の充実が長年求められてきたが、県内には日本語教員養成機関がなかった。そのため、宮崎大学では、地域社会の国際化・多様化に貢献できる実践的な人材育成を目的として本プログラムを設置した。なお、本プログラムは、国立大学法人では唯一、社会人に開かれた文化庁届出の日本語教員養成研修となっている。



令和元年 8 月の開講から 10 か月間のプログラムであったところ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による講義の延期、対面からオンラインへの変更などがあったが、無事修了できたことに修了生からは喜びの声があがった。

感染拡大防止を対策しながら開催された式では、修了生に履修証明書が授与された後、村上啓介国際連携センター長の式辞により、これからの活躍に期待が寄せられ、また臨席の講師らからは激励の言葉が贈られた。また、修了生からは、これまでの学修への思いとこれからのに向けた決意が述べられた。

今後、修了生は日本語教員として、宮崎における在住外国人への日本語支援や国際化および地域の活性化、ならびに国内外における日本語教育の場での活躍が期待される。

宮崎大学と宮崎大宮高校が連携したオンライン指導を実施

令和 2 年 6 月 24 日（水）、宮崎大学は宮崎県立宮崎大宮高等学校と連携して、高校生が取り組む探究活動に対して、大学教員がオンラインによる指導を行った。

本事業は、ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業（WWL）指定校である同校が進める取組の一環で、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよ



く問題を解決する資質や能力を育成する」ことを目的として、同校文科情報科2年生約80名が13グループを編成して課題の解決に向けた研究を進めるもので、大学教員がアドバイザーを務めて一年にわたって取り組み、年明けには日本語でのポスター発表、3年次の夏には英語によるポスター発表を実施する。

大学教員による第1回の指導となった今回は、オンライン上で、高校生と大学教員双方の自己紹介から始まり、グループで定めたテーマをはじめ、今後の研究計画や調査方法などについて高校生が大学教員に対して説明を行った。途中、細かな回線トラブル等に見舞われながらも、意見交換を行うとともに、大学教員から探究を実施していく上での基本的ルールや仮説を立てる際の注意点など、単なる知識の習得に留まらず、課題設定から課題解決に至るプロセスについて指導・助言が与えられ、参加した生徒からは「大学の先生と話していると、自分たちが考えてきたことが整理されていくのがわかった。すっきりした」、「これからどんな視点をもって取り組めばいいかが見えてきた」などの感想が聞かれた。

大宮高校では、令和2年8月3日・4日に台湾及びベトナムの連携校3校の生徒とチームを組んで、それぞれの国が抱えている課題についてオンラインでのプレゼンテーションを行うとともに、課題に対するディスカッションを英語で行い、その中で共通の課題を設定する。その後、チームでオンラインでの意見交換を続けながら協働による研究を進めていき、年内に科学技術振興機構(JST)が実施しているさくらサイエンスプランを利用して、台湾・ベトナムの連携校の高校生を宮崎に招き、フィールドワークを行うとともに共同研究の成果をまとめ、発表する予定としている。宮崎大学はこの取り組みについても、より充実したものとなるように支援していく。

宮崎大学教育学部・大学院教育学研究科、日向商工会議所との連携協力に関する協定を締結

令和2年6月24日(水)、宮崎大学教育学部・大学院教育学研究科と日向商工会議所は、連携協力に関する協定を締結した。

同協定は、互いの資源やコンテンツ、ノウハウを有効に活用して、キャリア教育を推進し、地域社会の発展に寄与するとともに教員養成及び教師教育の充実を図ることを目的としている。

締結式は、ホテルベルフォート日向で



行われ、福島重義日向市キャリア教育支援センター長や高木亮輔「14歳のよのなか挑戦」協力事業者の会会長など、両機関の関係者と日向市教育委員会の立ち会いの下、藤井良宜教育学部長と三輪純司日向商工会議所会頭が協定書に署名した。

式では、大学院教育学研究科の椋木香子教授が趣旨説明を行った後、藤井学部長が「日向市との研究で明らかになった事柄を学生に伝え、将来の教員になる学生がその実践を受け継げるよう取り組みたい」と挨拶した。続いて、三輪会頭が「人間らしい子どもたちをしっかりと作り、そこから経済をより一層発展させたい。しっかりと大学と力を合わせ取り組んでいきたい」と述べた。

立会人を務めた日向市教育委員会の今村卓也教育長は「日向市のキャリア教育は、産官学が一体となった取り組みであり、協定書の締結により、より高度な連携ができ、さらに深めていける。今後の取り組みに大きな夢と期待を寄せている」と語った。

今回の協定により、教育学部では、日向市のキャリア教育の事例や成果を調査研究し、県内外に発信する。日向商工会議所においては、学生たちがキャリア教育を学ぶ場を提供するとともに教育プログラムをさらに充実させることが期待される。

宮崎大学土呂久歴史民俗資料室オープン

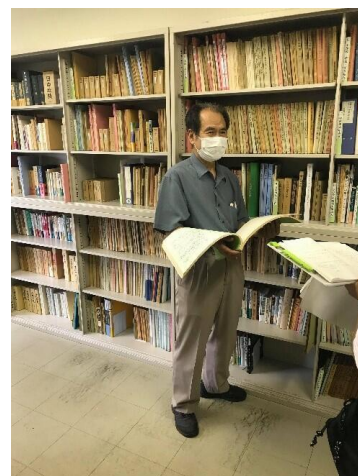
令和2年6月29日（月）、教育学部・地域資源創成学部棟内に設置する「宮崎大学土呂久（とろく）歴史民俗資料室」がオープンし、一般の方々や報道機関関係者へ公開された。

宮崎大学では、地域で活躍するために必要な知識や能力を身に付ける「宮崎大学地域教育プログラム」を実施している。その一環として、高千穂町土呂久地区（宮崎県）で学生実習を3年間実施してきたことが契機となり、大学内に資料室を設置することとなった。

当日訪れた人々は、本資料室の開設にあたって資料の収集や整備をされた土呂久の記録作家川原一之氏より、收藏されている資料について説明を聞きながら、貴重な資料を思い思いに手に取って確かめ、土呂久公害の被害者支援をしていた方が涙を浮かべる姿も見られた。

報道機関からの取材に対して、國武副学長は、「土呂久には、環境・地域教育として学ぶべきものが多くある。公害を乗り越え、今の自然豊かな風景が蘇るまでの過程や、今直面している過疎の問題など、土呂久公害を知らない学生にはもちろん、地域の方々へも調査・研究・学習に広く利用してもらいたい。」と述べた。

資料室では、土呂久村落史や公害関連資料約80000点を收藏している。古くは銀山として栄え、砒素による公害を経験し、現在の美しい土呂久を取り戻すまでの歴史を、時系列に沿って分類された豊富な資料を通して感じることができる。公害に関する資料も多く收藏され、当時の新聞記事や発行物、被害者からの聞き取りテープや土呂久に関するドキュメンタ

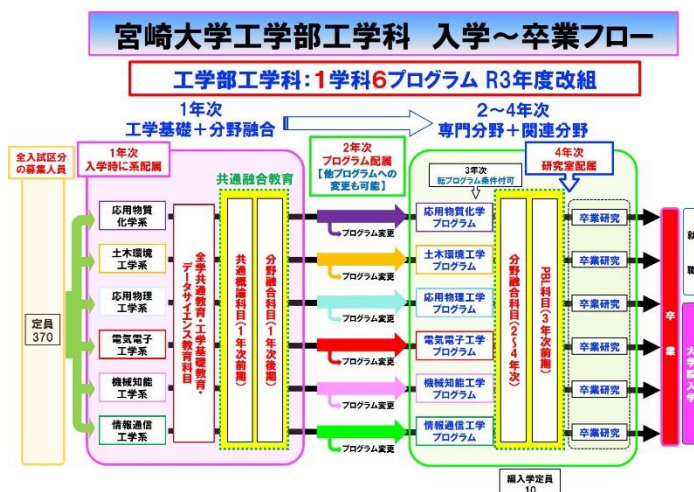


り一番組なども取りそろえている。また、土呂久公害による教訓を生かした研究成果をもとに、インドやバングラデシュをはじめとするアジア地域の環境改善に貢献している本学の功績についても学ぶことができる。

閲覧は無料。平日午前9時から午後5時のみ開室。見学希望の際は、事前予約が必要。

工学部の改組について

宮崎大学工学部は現在の7学科から1学科6プログラムへの変更をする。ジェネラリティを持つスペシャリストの養成、データサイエンス分野の強化及び環境・エネルギー工学研究センターの機能強化などを特徴としており、近年の社会情勢の急激な変化や社会からの要請に応える人材を県内企業や地方公共団体に供給していくことを目指す。



宮崎大学履修証明プログラム「宮崎大学 420 単位時間日本語教員養成プログラム」 2020 年度開講式を開催

令和2年7月4日（土）、宮崎大学は創立330記念交流会館において、宮崎大学履修証明プログラム「宮崎大学 420 単位時間日本語教員養成プログラム」2020 年度開講式を挙行事、第2期生にあたる29名の受講生を迎えた。

伊藤健一運営責任者（国際連携センター准教授）による挨拶、講師代表として長友和彦宮崎大学名誉教授による挨拶のあと、元文化庁国語課日本語教育専門官である



小松圭二学生支援部長による特別講演が行われた。講演では、「我が国の日本語教育の施策について」と題して、日本語教育の現状と国による取組みの説明があった。また、宮崎県における日本語教員数は全国で3番目に少ないことが紹介され、受講生に対して、本プログラ

ム修了後、地域に根ざした実践的な教員として活躍するよう期待が述べられた。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響をうけていることから、双方向型通信授業（オンライン授業）等を取り入れながらプログラムを実施し、2021年3月末の修了を予定している。

なお、本プログラムは宮崎県で唯一の文化庁届出の日本語教員養成研修であり、国立大学法人においては、唯一、社会人に門戸が開かれている。

附属図書館におけるネーミングライツパートナー募集について

令和2年7月6日（月）、宮崎大学では附属図書館におけるネーミングライツパートナーの募集を開始しました。

本事業は、公募を経て本学の「施設」や「講義室等」に愛称を設定することで、対象施設の知名度の向上を図るとともに、本学及び地域の活性化を促し民間事業者との連携を強化したいと考えています。



愛称を募集する施設は令和2年7月にリニューアルした附属図書館と館内のセミナー室4室です。ネーミングライツパートナーには企業イメージアップ効果、リクルート活動の促進及び産学連携の強化等の効果が期待されます。

附属図書館は本学の「知の拠点」であると共に、学生が「自ら学んで交流する場」でもあります。本学とともに、大志を抱く学生を応援する方を心からお待ちしております。

宮崎大学工学部同窓会が宮崎大学基金へ100万円の寄附目録を寄贈

令和2年7月8日、宮崎大学工学部同窓会から宮崎大学基金へ100万円の寄附を受け、本学学長室で贈呈式が執り行われた。

贈呈式では工学部同窓会の井上康雄会長から「工学部学生の教育活動を充実させ学生生活を豊かにするため工学部学生支援を目的に宮崎大学基金に寄附を行いたい」と述べ



られ、池ノ上學長へ寄附金目録を贈呈された。

これに対し、池ノ上學長から「学生の支えになるよう有効に使わせていただきます」と謝辞が述べられた。

このほか工学部同窓会は、就職活動の支援や学生の福利厚生への支援などを積極的に行うこととする。

附属図書館（本館）リニューアルオープン

令和2年7月15日（水）、全面改修工事のため昨年7月より休館していた本学附属図書館（本館）がおよそ1年ぶりにオープンしました。同日10時からオープニングセレモニーが図書館1階ワークショップコートにおいて開催され、本学経営協議会学外委員、宮崎県立図書館、宮崎県大学図書館協議会の加盟館、当館の歴代館長等、学内外からおおよそ70名の方々が参列しました。



オープニングセレモニーでは、池ノ上學長、新地附属図書館長の挨拶の後、場所を図書館正面玄関前に移して、池ノ上學長、坂経営協議会学外委員、中原宮崎県立図書館長、水光理事、新地館長、学生代表として教育学部4年生の妹尾さんによるテープカットでリニューアルオープンを祝いました。また、会場には祝電、お祝いの花が届けられ、セレモニーを文字どおり華やかに引き立てていました。その後、参列者は、およそ1年ぶりの開館を待ちわびていた学生や地域の方が利用している館内を見学しました。

“夢の素材”大量生産へ！ ミドリムシが作るナノファイバーが実用化

林教授らのグループは、ユーグレナ（ミドリムシ）が生産する多糖類からナノファイバーを生産する技術を開発しました。現在、ナノファイバーはセルロースから生産されていますが、コストの問題や性能にまだ課題が残るため試験的に用途の検討が行われています。しかし、ユーグレナ由来のナノファイバーはそれらの課題を一気に解決でき、幅広い化成品分野で利用が期待されます。この度、愛媛県四国中央市の紙加工業「スバル株式会社」が、実用化に乗り出しました。2020年3月にはユーグレナ培養のパイロットプラントが完成し、今年度は本格プラントを稼働予定です。5-7年後には年産1000トンの生産体制を目指しています。今後、様々な製品として、皆様の生活の中に、ミドリムシが作るナノファイバーが利用されると期待されます。